

## 2 (1) 平成 24 年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性

### (1) 分析目的

平成 24 年度の生活実感、政策の重要度、市政への関心度および幸福実感における市全体の回答と各属性（世代別・性別と居住区別）の回答を比べて特徴的な違いがあったものを把握するために分析を行った。これらの特徴的な違いの要因を分析することは、今後の政策や施策を検討する上で参考となりうる。

### (2) 分析方法と図表の見方

生活実感、政策の重要度、市政への関心度、幸福実感のそれぞれにおいて、市全体の回答と属性ごとの回答の数に有意差（単なる誤差ではない、意味のある差）があるかどうかを、有意差を計算する代表的な手法である「カイ二乗検定」を用いて分析した。有意確率（差が偶然生じたものである確率）が 5% 以上のものは無印、5% 未満のものは\*、1% 未満のものは\*\*、0.1% 未満のものは\*\*\*とした。\*が多いほど有意確率が高いことを意味する。次ページ以降には\* 2 個以上のものを表で一覧に示し、さらにどのような変化があったかを図と文章で示した。図には回答選択肢ごとの値を縦棒グラフで示した。このうち、値を比較して 10.0% 以上の違いがあったものを取り上げて説明を記した。ただし、10.0% 以上の違いがないものについては、回答率の違いが最も大きいものを取り上げた。項目ラベル内の

( ) 内の数値は有効回答数であり、無回答は除いている。

#### ①生活実感

有意確率が\*\*と\*\*\*であったものを対象として、回答の「そう思う」と「どちらかというそう思う」を肯定的な回答、「そう思わない」と「どちらかというそう思わない」を否定的な回答、「どちらともいえない」を中立の回答と判断し、回答の重みづけとして、「そう思う」をプラス 2 点、「どちらかというそう思う」をプラス 1 点、「どちらともいえない」を 0 点、「どちらかというそう思わない」をマイナス 1 点、「そう思わない」をマイナス 2 点と設定し、各回答数を掛け合わせたものを総回答数で割ることによって平均値を得た。例えば「Q 1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。」に対する若年層女性の回答数は、「そう思う」「どちらかというそう思う」「どちらともいえない」「どちらかというそう思わない」「そう思わない」の順に 9 票、9 票、30 票、15 票、15 票、合計 78 票、計算式は、 $(2 \times 9 + 1 \times 9 + 0 \times 30 - 1 \times 15 - 2 \times 15) / 78 = -0.231$  となる。市全体の回答数は同じく、66 票、134 票、178 票、74 票、47 票、合計 499 票、計算式は、 $(2 \times 66 + 1 \times 134 + 0 \times 178 + 0 - 1 \times 74 - 2 \times 47) = 0.198$  となる。若年層女性の回答の平均値は市全体の平均値と比較して  $-0.231 - 0.198 = -0.429$  となる。市全体の回答と各属性の回答の比較差は、市全体の平均より各属性のほうが肯定的な回答が多ければプラスの値が得られ、否定的な回答が多ければマイナスの値が得られることになり、市全体との差がプラスの場合は+、マイナスの場合は-でそれぞれ表した。

#### ②政策の重要度

政策 27 分野の中から 5 分野までを順位をつけずに選択するため重みづけができないことから、比較差として市全体と各属性の割合の差を示した。

#### ③市政への関心度・幸福実感

生活実感と同じ手法により分析した。

### (3) 分析結果

以降には、有意差があったもののうち、特徴的なものを取り上げる。

#### ①生活実感

有意差がある項目は18項目であり、\*\*\*が5項目、\*\*が13項目であった。その内訳は、市全体と比べてプラスが10項目に対してマイナスが8項目であった。

各分類における分析結果の概要は以下のとおりである。

##### ○政策分野別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（18項目）

「観光」が4項目で最も多く、「産業・商業」が3項目で次いだ。「観光」は4項目中3項目がマイナスであった一方、「産業・商業」はすべてプラスであったことが特徴的である。

##### ○世代別・性別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（12項目）

若年層女性が6項目で最も多く、若年層男性が4項目で次いだ。

##### ○居住区別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（6項目）

東山区で2項目、北区、中京区、下京区、南区で1項目の特徴的な違いがあった。

#### ②政策の重要度

有意差がある項目は20項目であり、\*\*\*が9項目、\*\*が11項目であった。その内訳は、市全体と比べてプラスが9項目に対してマイナスが11項目であった。

各分類における分析結果の概要は以下のとおりである。

##### ○政策分野別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（20項目）

「文化」が3項目で最も多く、「市民生活の安全」「産業・商業」「高齢者福祉」「学校教育」が2項目で次いだ。

##### ○世代別・性別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（18項目）

若年層女性が6項目で最も多く、若年層男性と高年層女性が4項目で次いだ。特に若年層女性が「子育て支援」を重要と思う傾向と、若年層男性が「消防・防災」を重要な分野として選択しない傾向が特徴的であった。

##### ○居住区別の回答の中で特徴的な違いがあったもの（2項目）

中京区と伏見区で1項目の特徴的な違いがあった。

#### ③市政への関心度

特徴的な違いはなかった。

#### ④幸福実感

有意差がある項目は3項目あり、すべて\*\*であった。市全体と比べて、女性全般において幸福だと感じる傾向があり、中でも若年層女性は特に高い。一方、中年層男性と高年層男性は幸福実感が特に低かった。

## 2(1) 平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性(生活実感)

分析結果は見る側の視点に立ち、政策分野別、世代別・性別、居住区別の三つに分けて示しているが、政策分野別に示されている分析結果と次ページの世代別・性別および居住区別に示されている分析結果は同じ内容である。

### 【政策分野別】

分野	設問	有意差	属性	比較差
環境	Q1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	**	若年層女性	-0.43
青少年の成長と参加	Q14 青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。	***	中京区	+0.55
文化	Q26 京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	***	若年層女性	+0.26
	Q28 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	***	若年層女性	+0.32
スポーツ	Q31 プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。	**	若年層男性	+0.37
産業・商業	Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な事業者が多い。	***	若年層女性	+0.56
	Q37 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	**	若年層女性	+0.33
	Q38 京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	**	若年層男性	+0.19
観光	Q41 じっくり滞在し、ほんものとのふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	**	東山区	-0.16
	Q43 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。	***	若年層男性	-0.35
		**	中年層男性	-0.43
	Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	**	東山区	+0.47
保健衛生・医療	Q78 正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。	**	若年層男性	-0.35
	Q79 利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。	**	南区	+0.04
学校教育	Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	**	北区	-0.38
建築物	Q110 地震や火災に強い建物が増えている。	**	下京区	-0.28
くらしの水	Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	**	若年層女性	-0.29
	Q127 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	**	高年層女性	+0.31

※各属性と市全体との比較。比較差+の場合は市全体と比べて肯定的であり、-の場合は市全体と比べて否定的である。

	**	***		**	***
若年層男性	3	1	北区	1	
若年層女性	3	3	上京区		
中年層男性	1		左京区		
中年層女性			中京区		1
高年層男性			東山区	2	
高年層女性	1		山科区		
			下京区	1	
			南区	1	
			右京区		
			西京区		
			伏見区		

## 2(1) 平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性(生活実感)

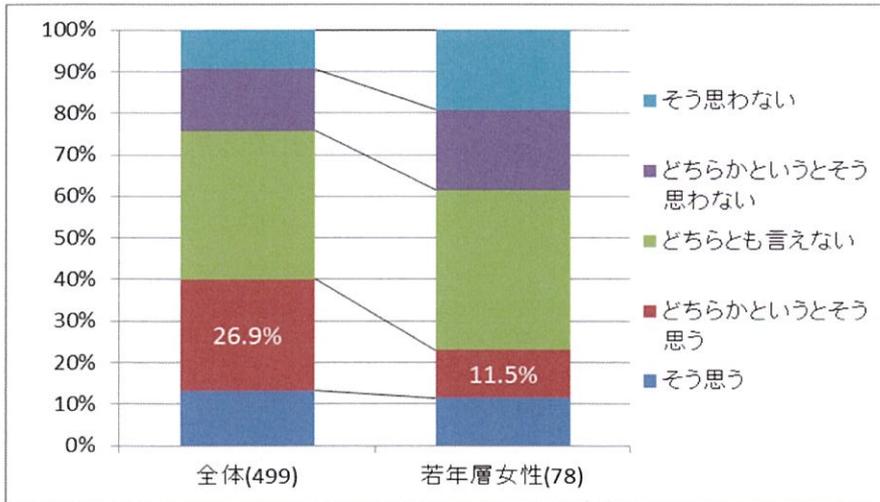
### 【世代別・性別】

属性	分野	設問	有意差	比較差
若年層 男性	スポーツ	Q31 プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。	**	+0.37
	産業・商業	Q38 京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。	**	+0.19
	観光	Q43 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。	***	-0.35
	保健衛生・医療	Q78 正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。	**	-0.35
若年層 女性	環境	Q1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	**	-0.43
	文化	Q26 京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	***	+0.26
		Q28 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	***	+0.32
	産業・商業	Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。	***	+0.56
		Q37 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。	**	+0.33
くらしの水	Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。	**	-0.29	
中年層 男性	観光	Q43 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。	**	-0.43
高年層 女性	くらしの水	Q127 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	**	+0.31

### 【居住区別】

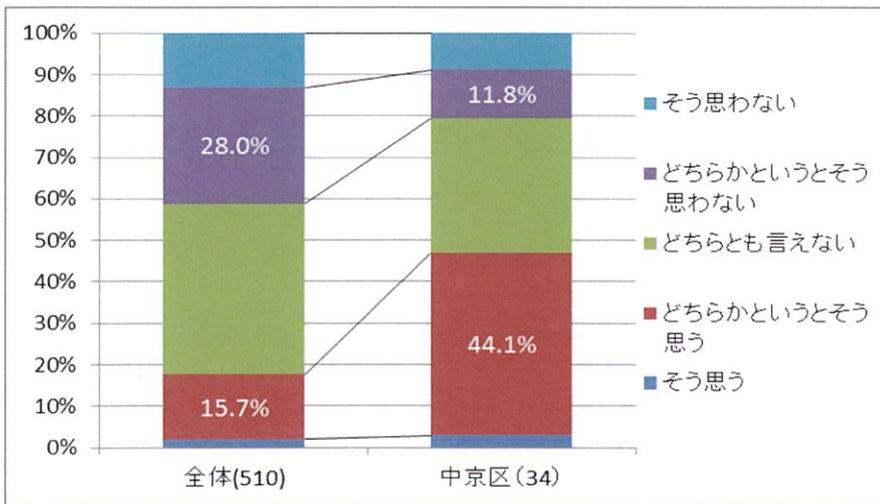
属性	分野	設問	有意差	比較差
北区	学校教育	Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。	**	-0.38
中京区	青少年の成長と参加	Q14 青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が生かされている。	***	+0.55
東山区	観光	Q41 じっくり滞在し、ほんものとふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。	**	-0.16
		Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。	**	+0.47
下京区	建築物	Q110 地震や火災に強い建物が増えている。	**	-0.28
南区	保健衛生・医療	Q79 利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。	**	+0.04

Q1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかげがえのないものと実感している。



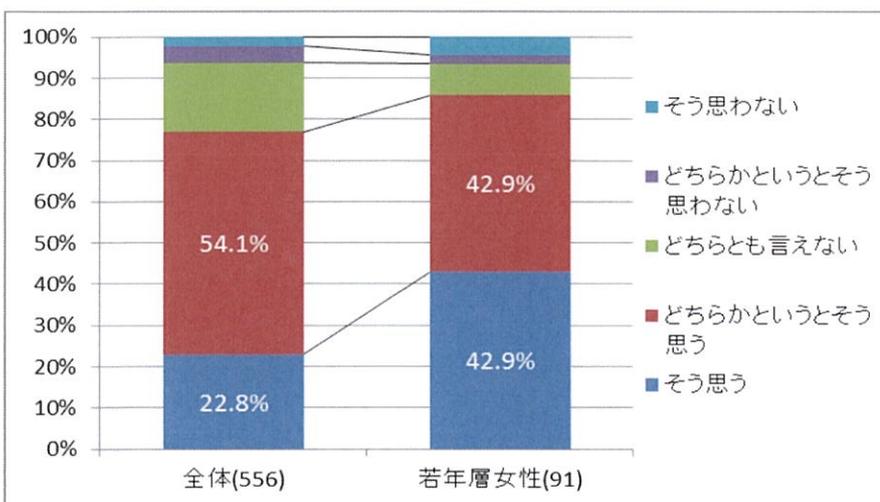
若年層女性は全体と比較し、「どちらかというと思う」が少ない

Q14 青少年が社会の幅広い分野にかかわり、意見や活力が活かされている。



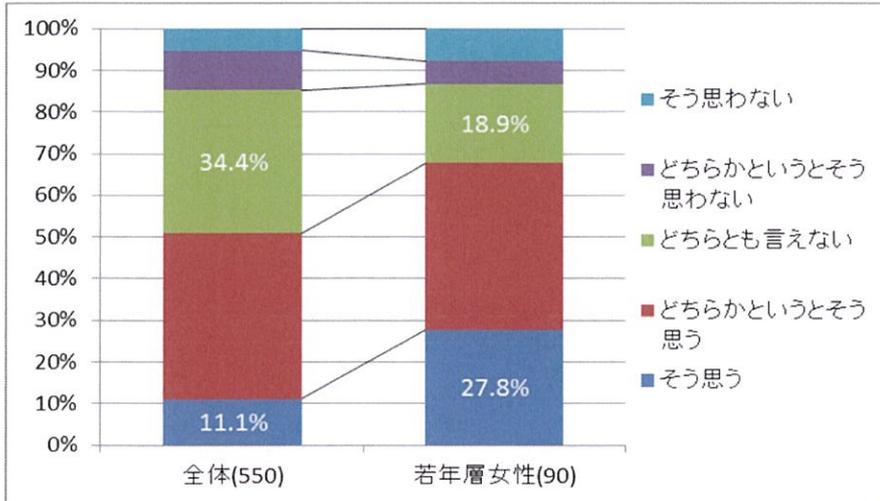
中京区は全体と比較し、「どちらかというと思う」が多い  
「どちらかというと思わない」が少ない

Q26 京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。



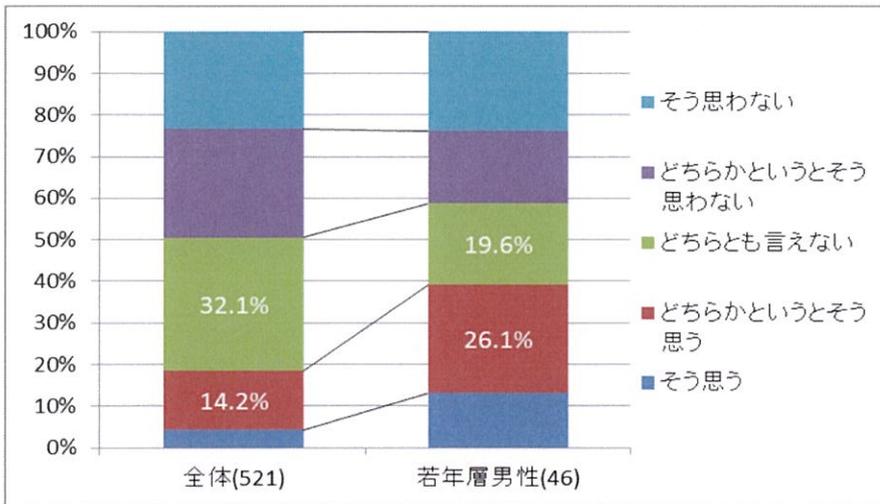
若年層女性は全体と比較し、「そう思う」が多い  
「どちらかというと思う」が少ない

Q28 文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。



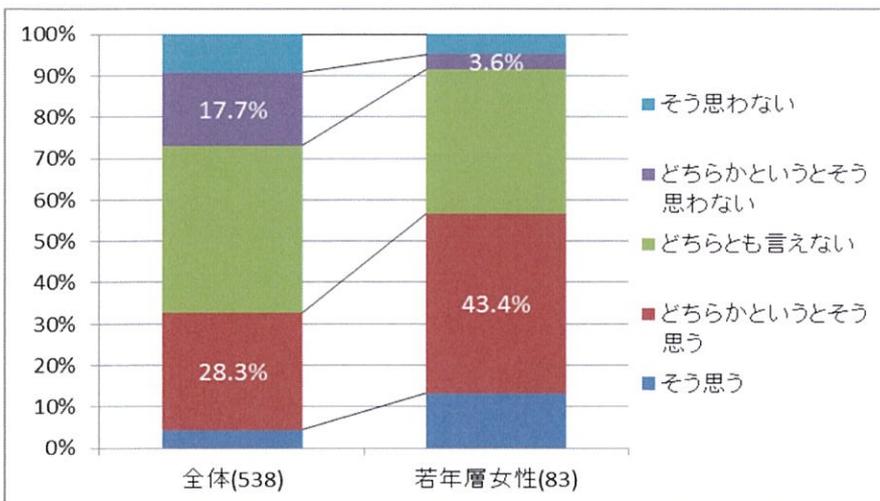
若年層女性は全体と比較し、  
「そう思う」が多い  
「どちらとも言えない」が少ない

Q31 プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。



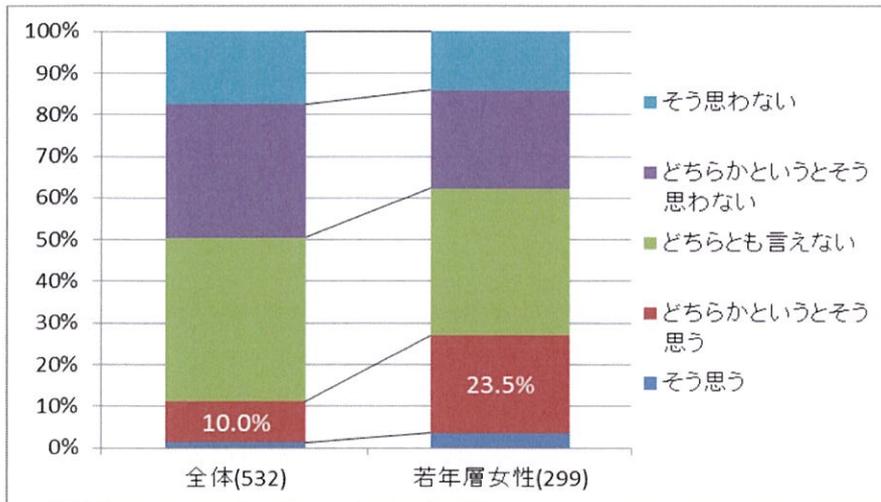
若年層男性は全体と比較し、  
「どちらかというと思う」が多い  
「どちらとも言えない」が少ない

Q36 京都の商業は盛んで楽しく買い物ができ、元気な商業者が多い。



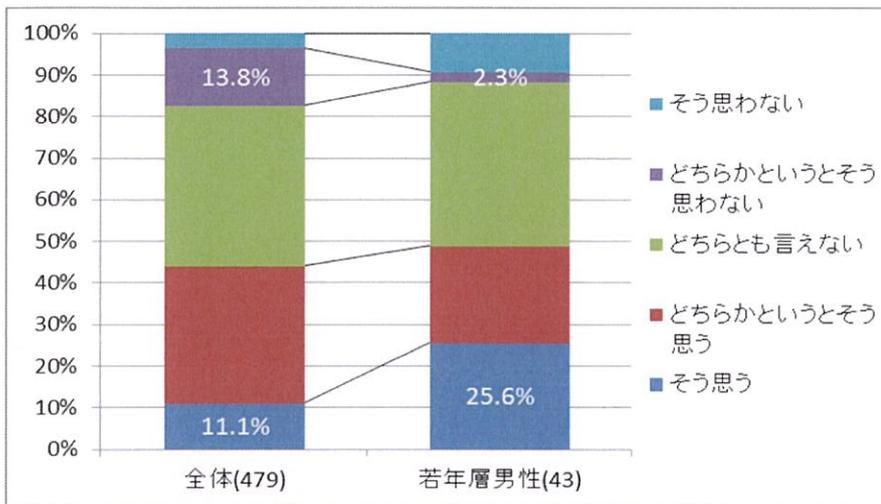
若年層女性は全体と比較し、  
「どちらかというと思う」が多い  
「どちらかというと思わない」が少ない

Q37 働くことを希望するひとがいきいきと働ける場を得る機会がある。



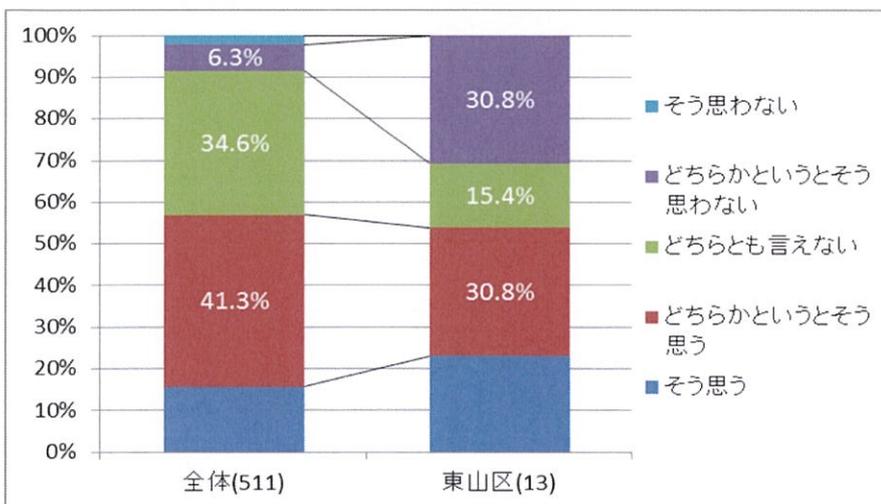
若年層女性は全体と比較し、「どちらかというと思う」が多い

Q38 京都では、産業界・大学・行政などが連携して、企業の誘致や事業環境の整備を進めている。



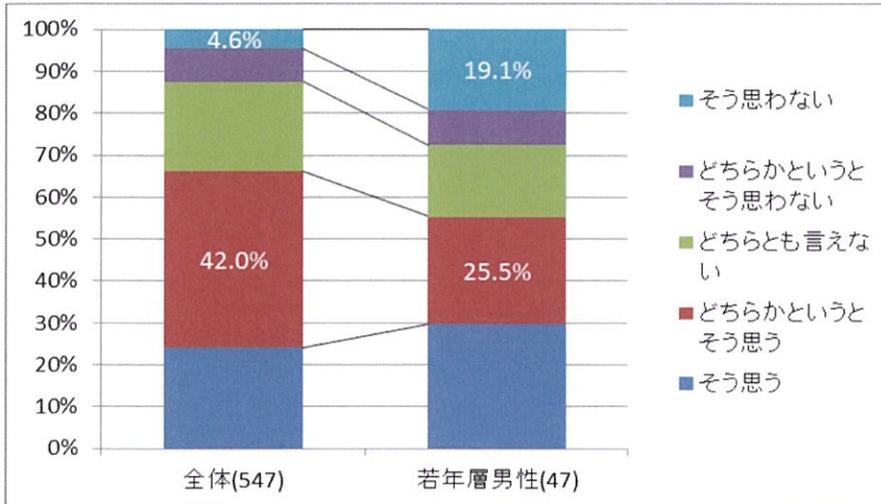
若年層男性は全体と比較し、「そう思う」が多い  
「どちらかというと思わない」が少ない

Q41 じっくり滞在し、ほんものとおふれあい、歩いて楽しむ観光客が増えている。



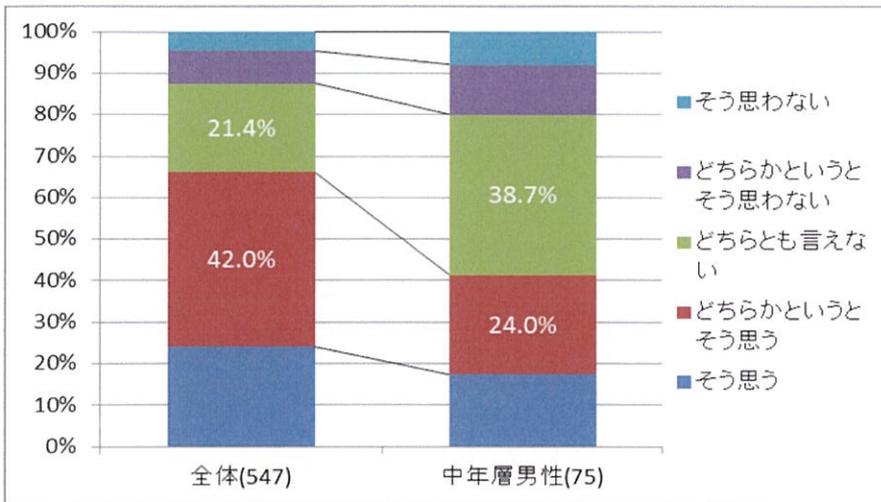
東山区は全体と比較し、「どちらかというと思わない」が多い  
「どちらかというと思う」と「どちらとも言えない」が少ない

Q43 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。



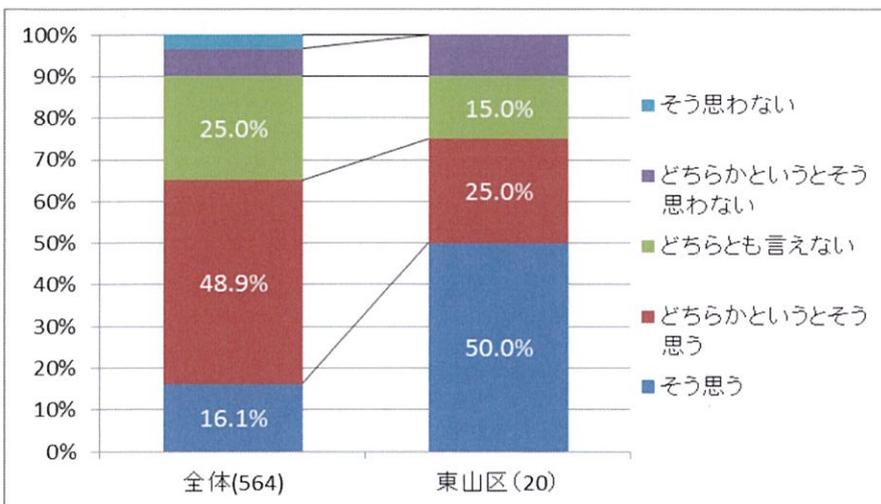
若年層男性は全体と比較し、  
「そう思わない」が多い  
「どちらかというと思う」が少ない

Q43 京都市民は、四季折々の京都観光を楽しんでいる。



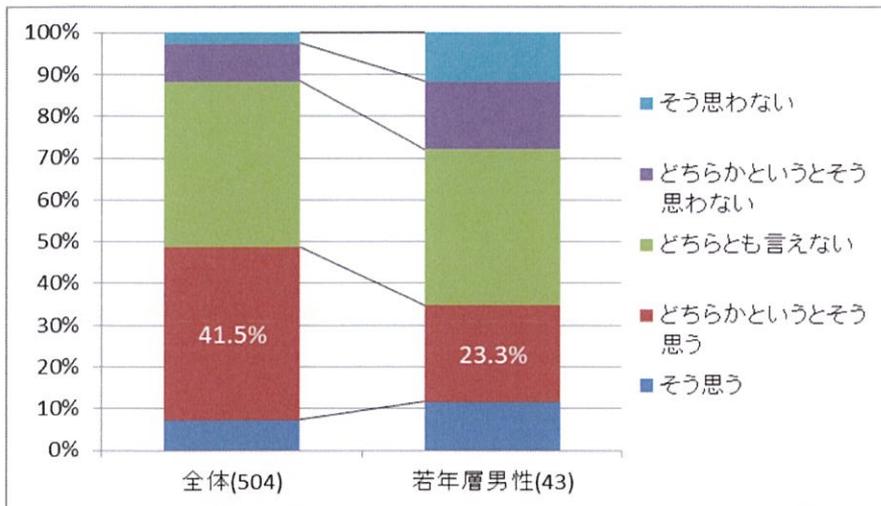
中年層男性は全体と比較し、  
「どちらとも言えない」が多い  
「どちらかというと思う」が少ない

Q45 京都市民は、観光客を温かく迎えるなど、京都観光の振興に協力的である。



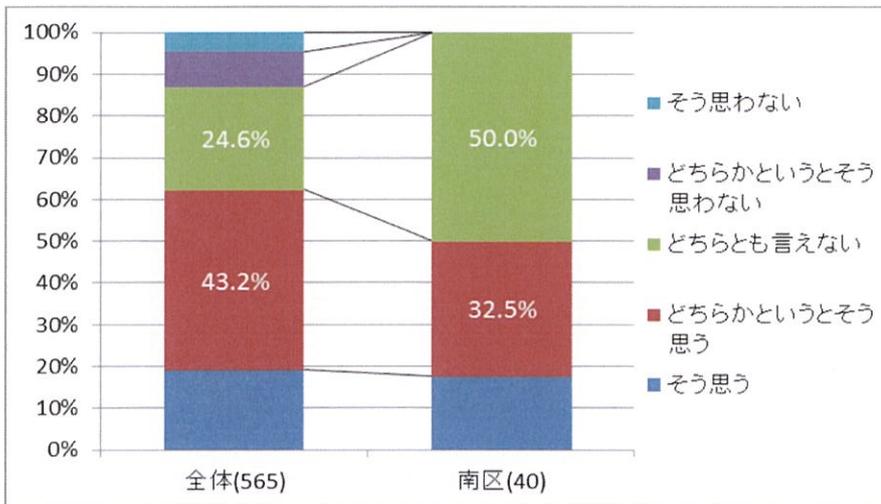
東山区は全体と比較し、  
「そう思う」が多い  
「どちらかというと思う」と「どちらとも言えない」が少ない

Q78 正しい情報を基に、健康づくりに取り組むひとが増えている。



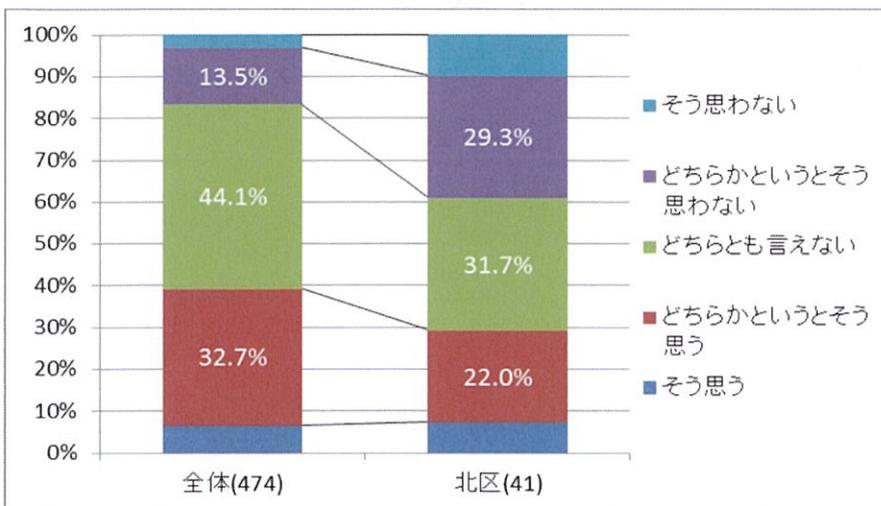
若年層男性は全体と比較し、「どちらかというと思う」が少ない

Q79 利用しやすく頼れる医療や検診の機関がある。



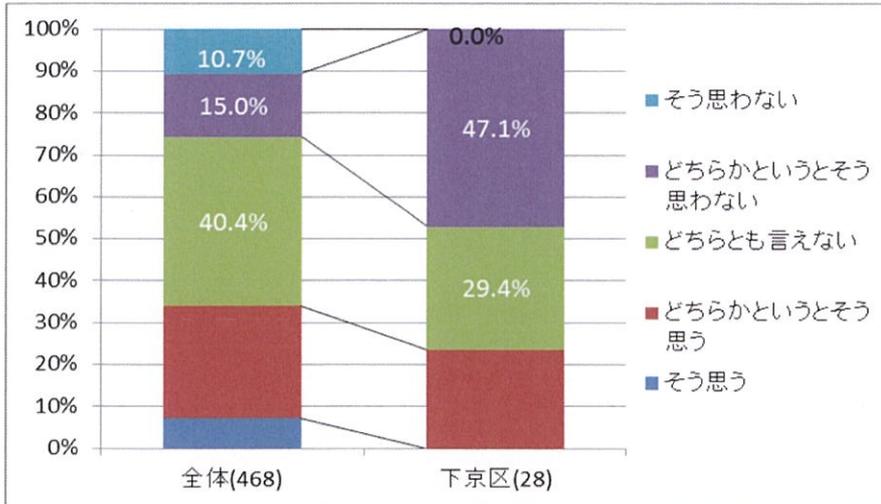
南区は全体と比較し、「どちらとも言えない」が多い  
「どちらかというと思う」が少ない

Q87 京都ならではの伝統文化や環境の教育が、社会を担える人材の育成に役立っている。



北区は全体と比較し、「どちらかというと思わない」が多い  
「どちらかというと思う」と「どちらとも言えない」が少ない

Q110 地震や火災に強い建物が増えている。

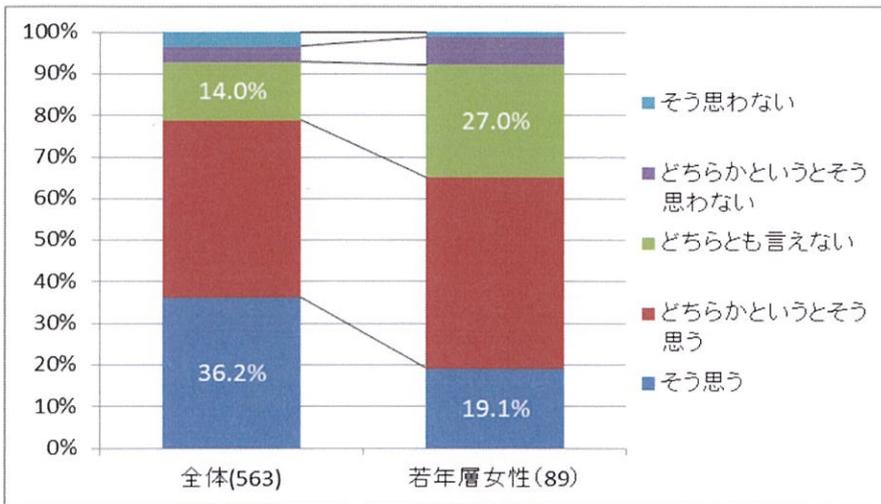


下京区は全体と比較し、

「どちらかというと思わない」が多い

「どちらとも言えない」と「そう思わない」が少ない

Q125 京都の上下水道は、安全で安心していつでも利用できる。

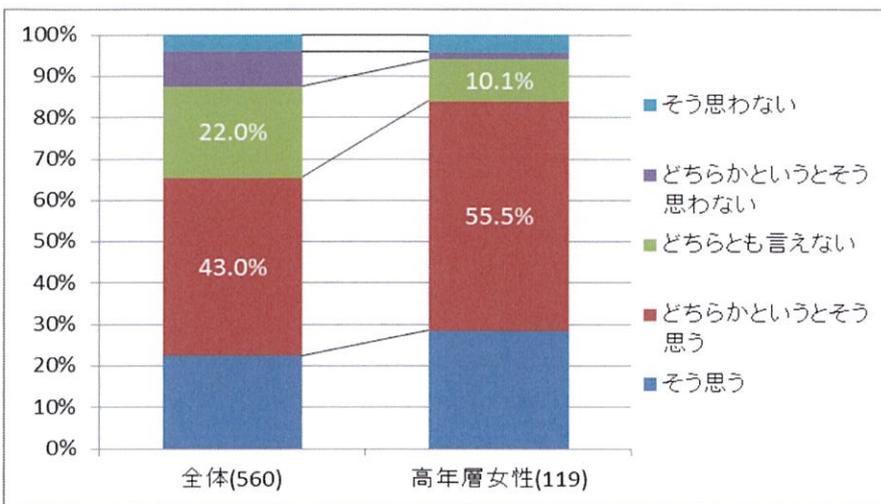


若年層女性は全体と比較し、

「どちらとも言えない」が多い

「そう思う」が少ない

Q127 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。



高年層女性は全体と比較し、

「どちらかというと思う」が多い

「どちらとも言えない」が少ない

2(1) 平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性(政策の重要度)

分析結果は見る側の視点に立ち、政策分野別、世代別・性別、居住区別の三つに分けて示しているが、政策分野別に示されている分析結果と世代別・性別および居住区別に示されている分析結果は同じ内容である。

【政策分野別】

分野	有意差	属性	比較差
市民生活の安全	**	若年層女性	-12.4%
	***	高年層女性	+8.4%
文化	**	高年層女性	-6.6%
	***	中京区	+14.0%
	***	伏見区	-9.0%
スポーツ	***	若年層男性	+9.2%
産業・商業	**	若年層男性	+11.5%
	**	若年層女性	-8.6%
子育て支援	***	若年層女性	+22.1%
障害者福祉	**	若年層男性	-13.8%
高齢者福祉	***	若年層女性	-14.2%
	**	高年層男性	+7.4%
保健衛生・医療	**	高年層男性	-8.9%
学校教育	***	若年層女性	+13.1%
	***	高年層女性	-10.5%
生涯学習	***	中年層女性	+7.2%
歩くまち	**	若年層女性	-7.9%
土地利用と都市機能配置	**	高年層女性	-3.6%
消防・防災	**	若年層男性	-18.4%
くらしの水	**	高年層男性	+7.0%

【世代別・性別】

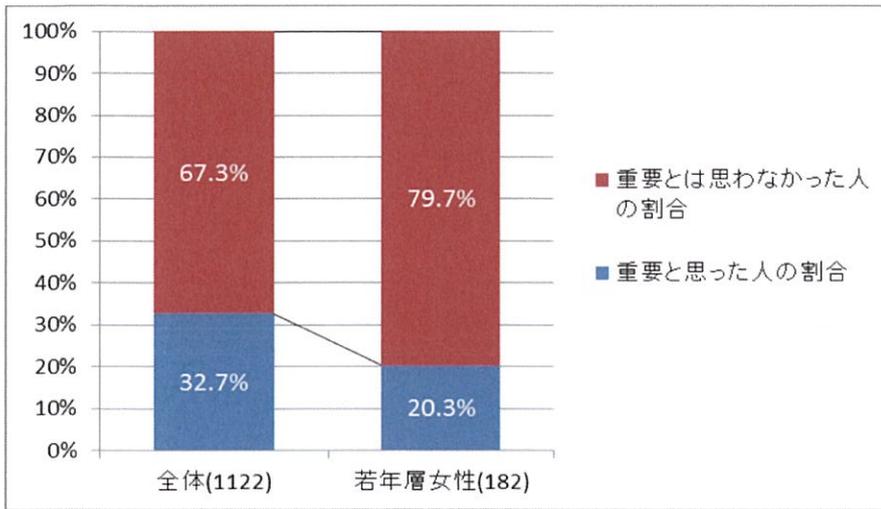
属性	分野	有意差	比較差
若年層男性	スポーツ	***	+9.2%
	産業・商業	**	+11.5%
	障害者福祉	**	-13.8%
	消防・防災	**	-18.4%
若年層女性	市民生活の安全	**	-12.4%
	産業・商業	**	-8.6%
	子育て支援	***	+22.1%
	高齢者福祉	***	-14.2%
	学校教育	***	+13.1%
	歩くまち	**	-7.9%
中年層女性	生涯学習	***	+7.2%
高年層男性	高齢者福祉	**	+7.4%
	保健衛生・医療	**	-8.9%
	くらしの水	**	+7.0%
高年層女性	市民生活の安全	***	+8.4%
	文化	**	-6.6%
	学校教育	***	-10.5%
	土地利用と都市機能配置	**	-3.6%

【居住区別】

属性	分野	有意差	比較差
中京区	文化	***	+14.0%
伏見区	文化	***	-9.0%

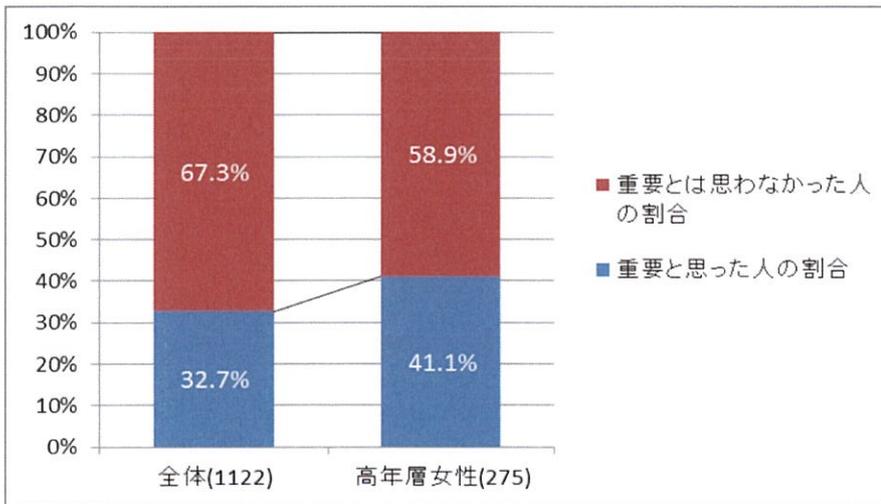
若年層男性	**	***	北区	**	***
若年層女性	3	1	上京区		
中年層男性	3	3	左京区		
中年層女性		1	中京区		1
高年層男性	3		東山区		
高年層女性	2	2	山科区		
			下京区		
			南区		
			右京区		
			西京区		
			伏見区		1

## 市民生活の安全



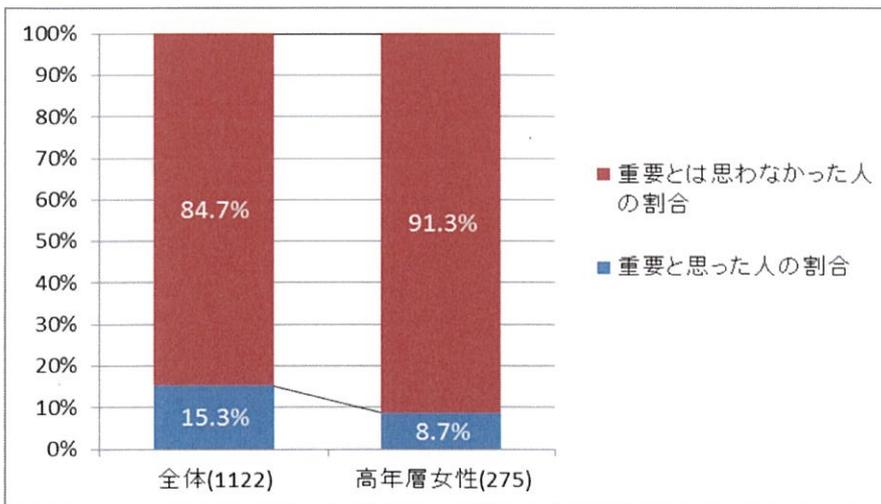
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 市民生活の安全



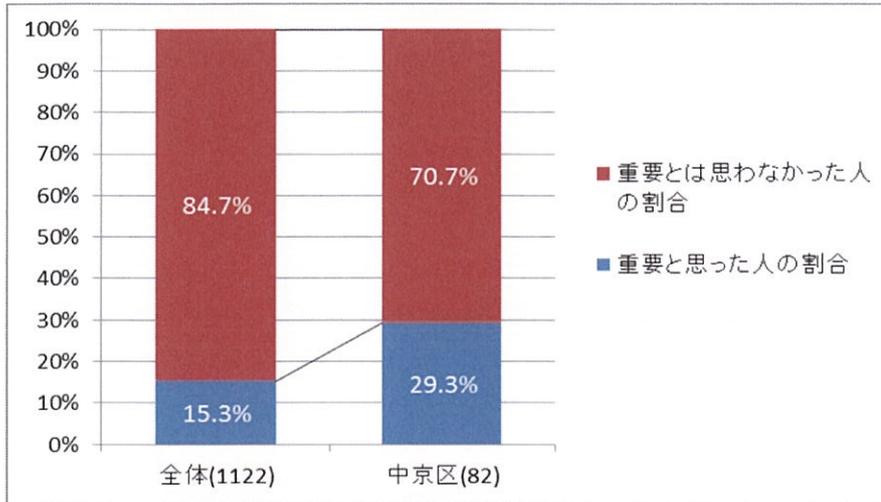
高年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 文化



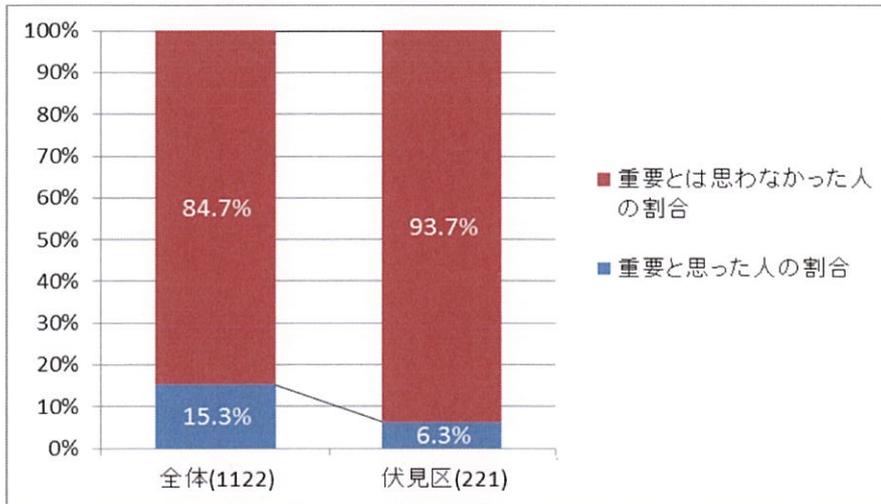
高年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 文化



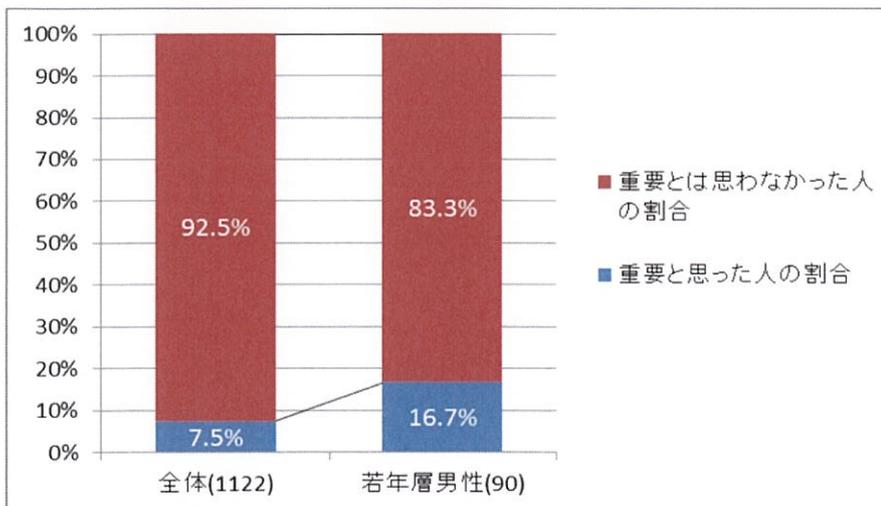
中京区は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 文化



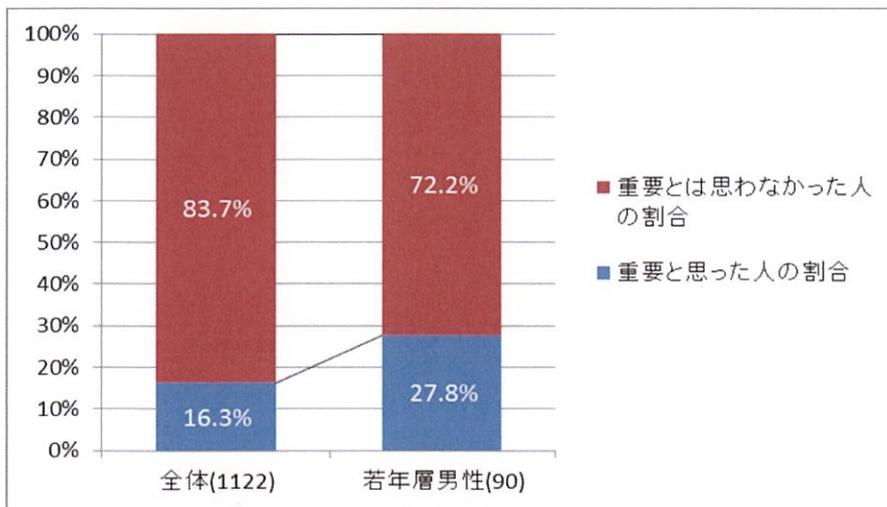
伏見区は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## スポーツ



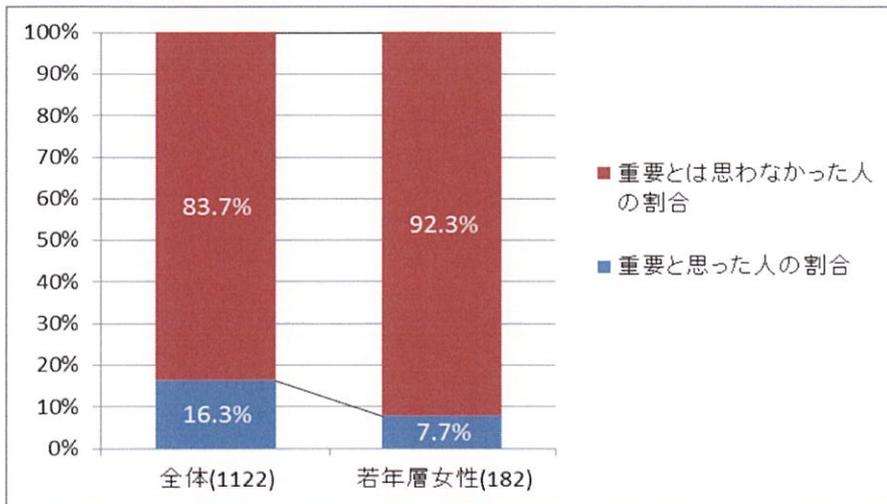
若年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 産業・商業



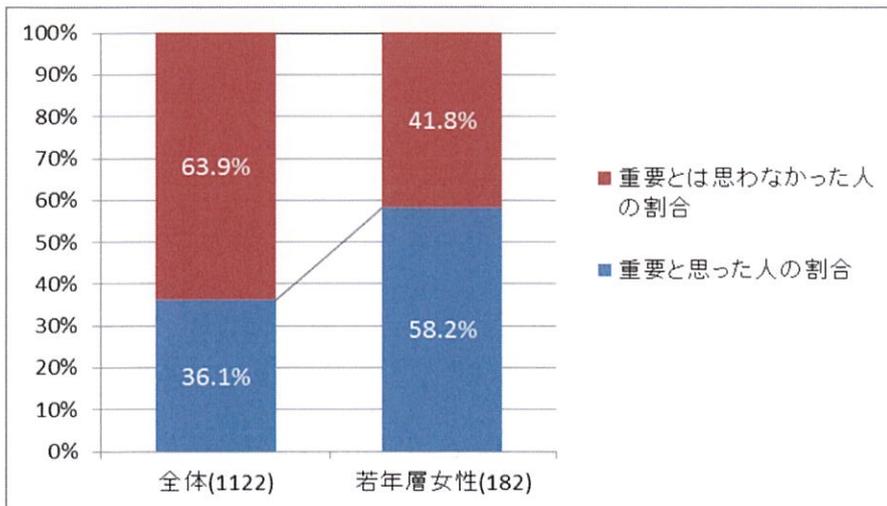
若年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 産業・商業



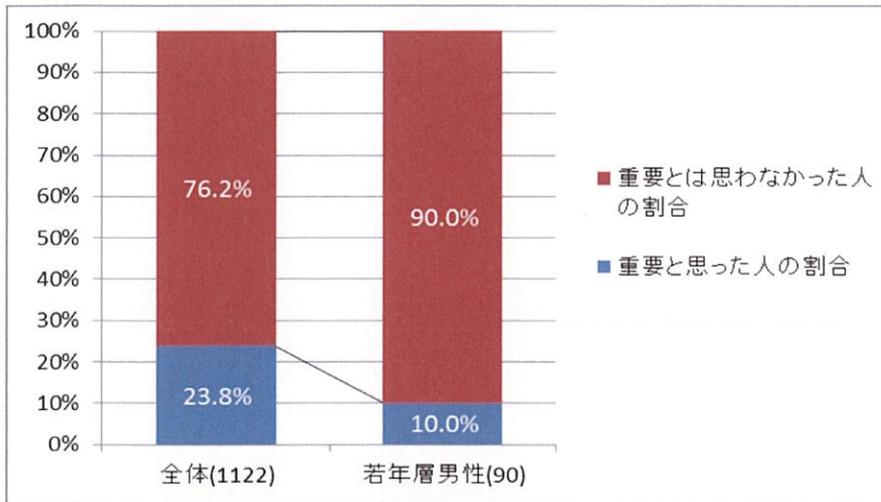
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 子育て支援



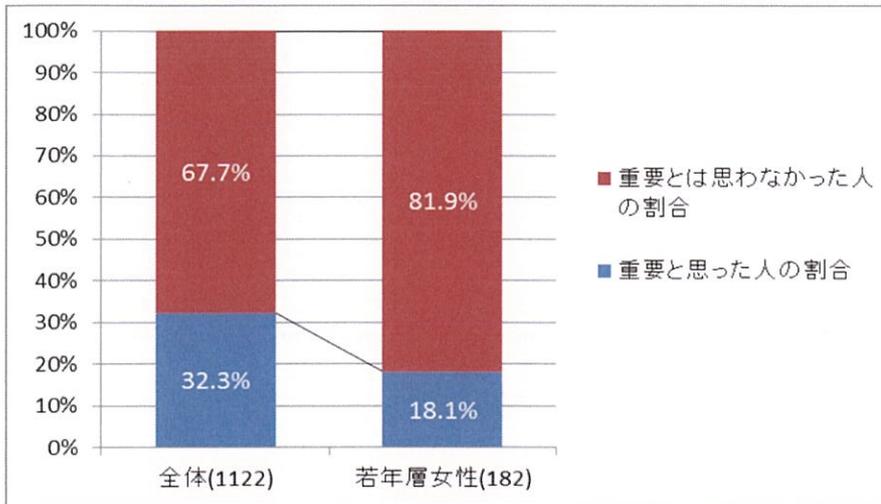
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 障害者福祉



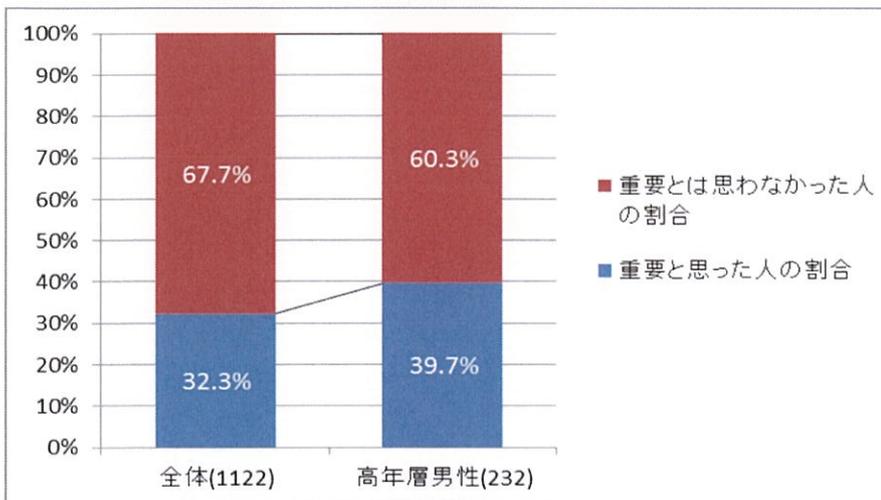
若年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 高齢者福祉



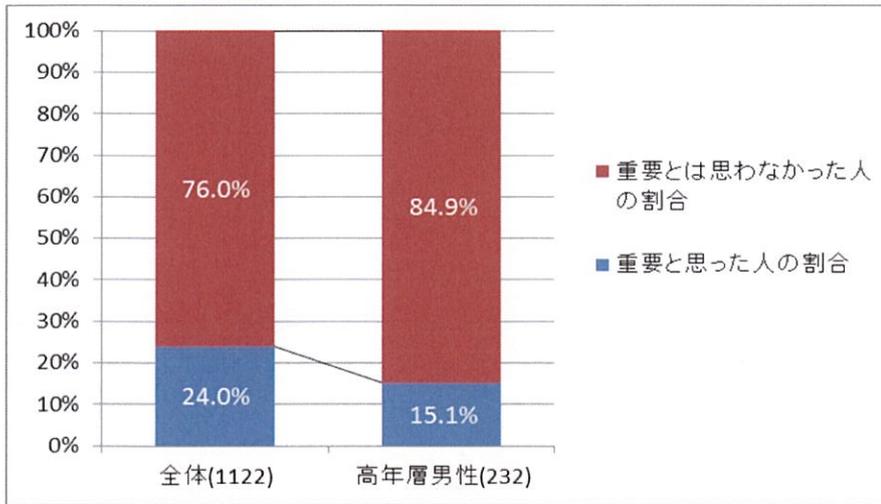
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 高齢者福祉



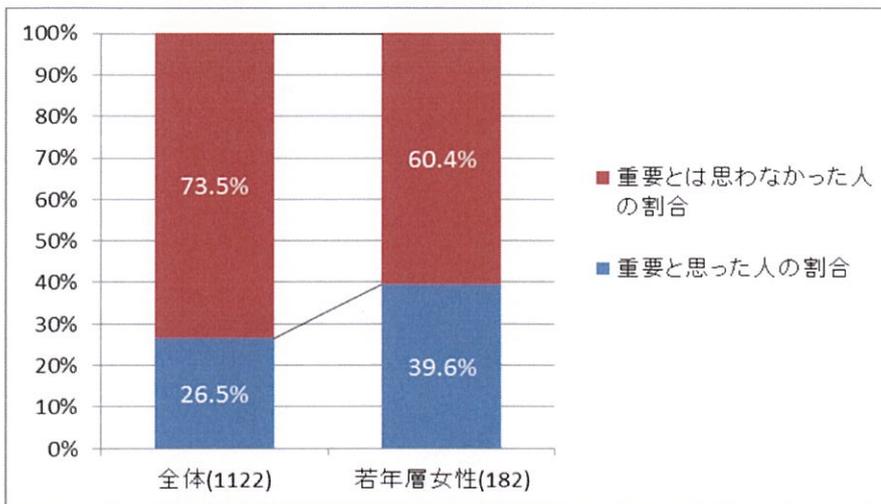
高年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 保健衛生・医療



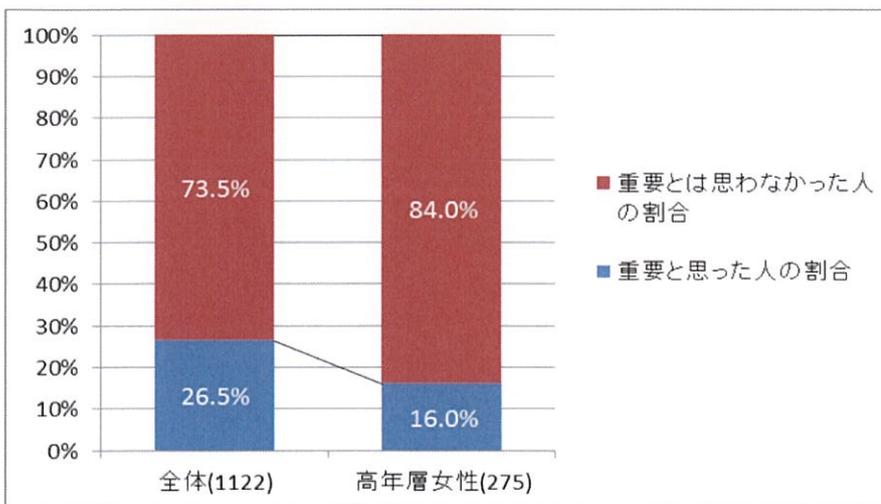
高年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 学校教育



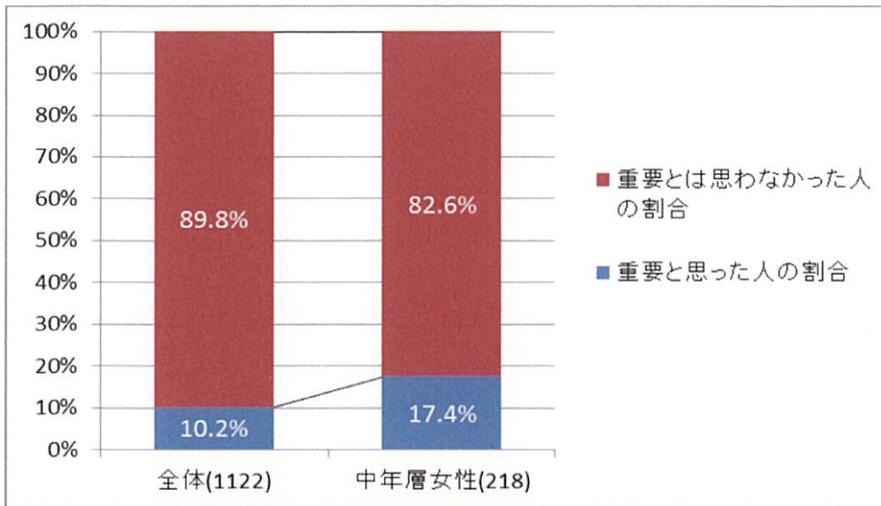
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 学校教育



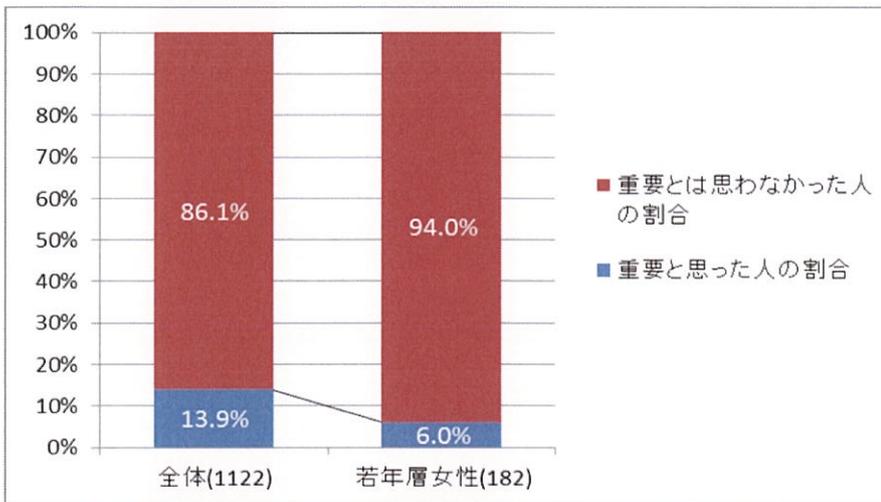
高年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 生涯学習



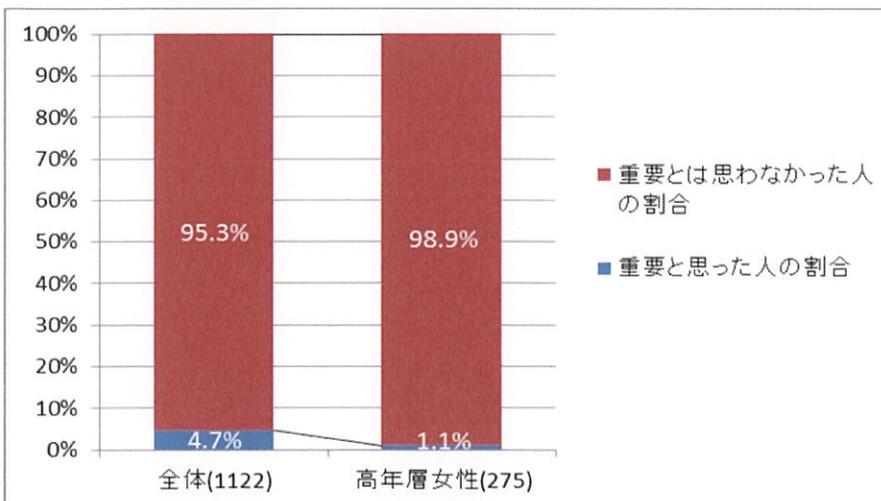
中年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

## 歩くまち



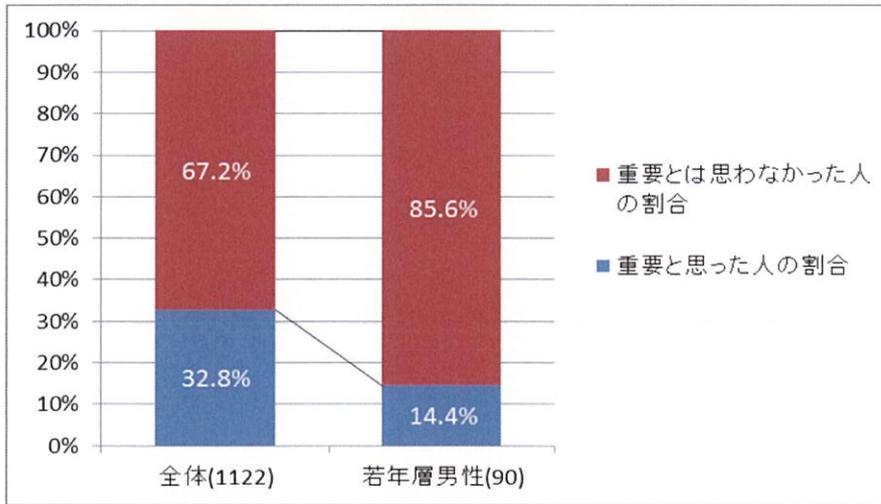
若年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 土地利用と都市機能配置



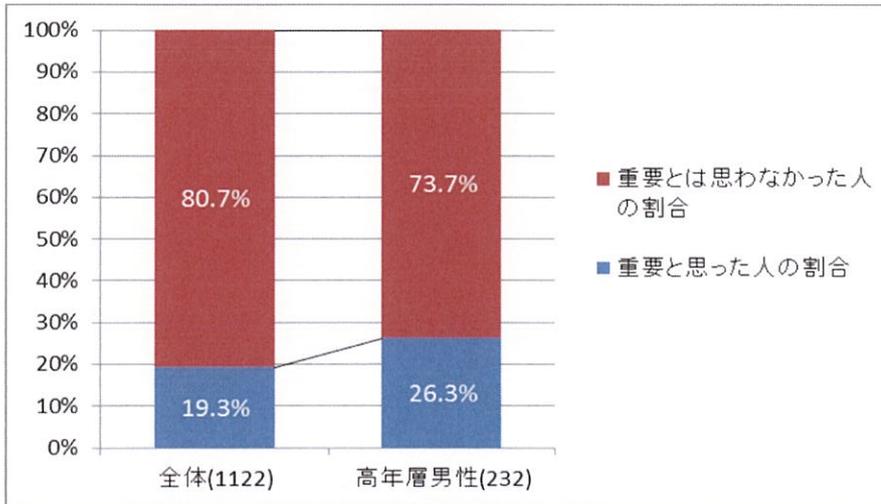
高年層女性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## 消防・防災



若年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が少ない

## くらしの水

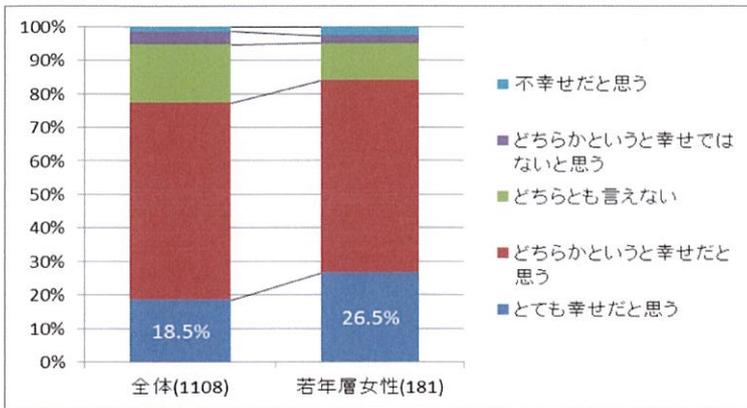


高年層男性は全体と比較し、「重要と思った人」の割合が多い

2(1) 平成24年度の回答において市全体と比べて特徴的な傾向を示した属性(幸福実感)

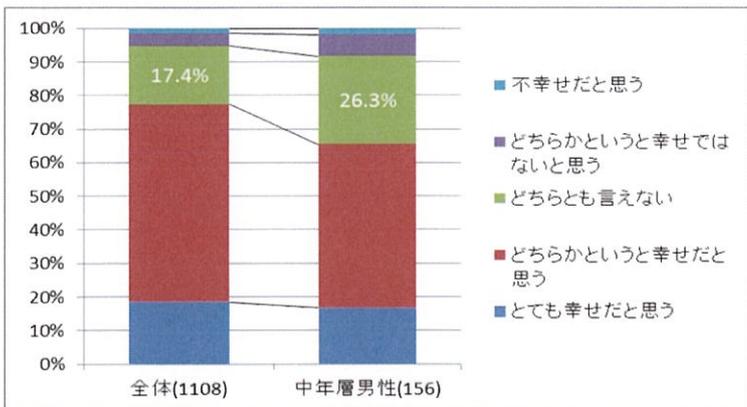
属性	有意差	比較差
若年層女性	**	+0.14
中年層男性	**	-0.17
高年層男性	**	-0.12

若年層女性



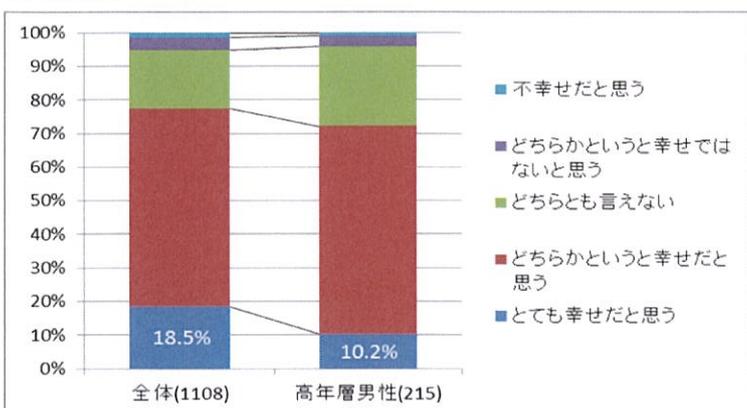
若年層女性は全体と比較し、「とても幸せだと思う」が多い

中年層男性



中年層男性は全体と比較し、「どちらとも言えない」が多い

高年層男性



高年層男性は全体と比較し、「とても幸せだと思う」が少ない